

令和元年度 経営改善計画ヒアリング 計画・取組状況とヒアリング時の特記事項 <募集定員の確保・知名度向上>

今後の計画（3年間）	令和元年度の具体的取り組み・タイムスケジュール	ヒアリング時の特記
<p>&lt;入試課&gt;</p> <p><b>【学生募集活動】</b></p> <p><b>入学者の確保（入学定員）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.学生募集組織の再構築</li> <li>2.高校訪問</li> <li>3.進学説明会への参加</li> <li>4.ホームページによる情報発信</li> <li>5.進学情報誌・進学情報 Web による情報発信</li> <li>6.大学案内による情報発信</li> <li>7.大学紹介動画による情報発信</li> <li>8.オープンキャンパスの開催</li> <li>9.NiAS セミナー（出張講義）</li> <li>10.高大連携事業の実施</li> <li>11.留学生の受け入れ促進</li> <li>12.女子学生の受け入れ促進</li> <li>13.編入学の受け入れ促進</li> <li>14.志願者・入学者の情報管理</li> </ol>	<p>&lt;入試課&gt;</p> <p>左欄 1.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆募集戦略会議の設置（4月）（随時開催）</li> <li>◆学生確保システムの構築（同窓会、退職教員等）（7月）</li> </ul> <p>左欄 2.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆入学御礼、在学生報告、推薦・AO 入試出願依頼（4～8月）</li> <li>◆在学生報告、一般入試出願依頼（9月以降）</li> <li>◆退職教員による高校訪問（宮崎県）（8月～3月）</li> </ul> <p>左欄 3.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆主に3年生（4～10月）、主に1・2年生（11月以降）</li> <li>◆次年度進学説明会の検討（10月～3月）</li> </ul> <p>左欄 4.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆入試情報、イベント等の更新（随時）</li> <li>◆各コースのホームページの検討（随時）</li> </ul> <p>左欄 5.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆次年度進学情報誌・進学情報 Web の検討（10月～3月）</li> </ul> <p>左欄 6.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆次年度大学案内の作成（8月～3月）</li> </ul> <p>左欄 7.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆次年度大学紹介動画の作成（4月）</li> </ul> <p>左欄 8.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆オープンキャンパス（7月21日、8月4日、9月16日）</li> <li>◆次年度開催方法の検討（10月～12月）</li> </ul> <p>左欄 9.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆NiAS セミナーの紹介、実施（随時）</li> </ul> <p>左欄 10.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆附属高校との連携事業（4月～12月）</li> <li>学長講話（1・3年）、総合的な学習（2年）、進学説明会</li> <li>次年度連携事業の検討（1月～3月）</li> <li>◆高校、中学校からの体験学習の受け入れ（随時）</li> <li>◆SSH 事業等への本学教員の派遣（随時）</li> </ul> <p>左欄 11.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆別科生への大学紹介（随時）</li> <li>◆日本語学校（国内・海外）訪問（随時）</li> <li>◆海外大学との協定による編入学生の受け入れ</li> </ul> <p>左欄 12.</p>	<p>&lt;入試課&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度入学者 187 名（編入学 4 名）、昨年 210 名、一昨年 205 名。</li> <li>・高校訪問での昨年と今年の変化？→昨年は建築希望者が多かったが、今年は機械が多い。</li> <li>・進学ガイダンスなどで、特に機械や映像関係に興味のある高校生が多い感触。</li> <li>・今年度も、全学挙げての募集活動。退職教員・同窓会等の新たな開拓でどれだけ稼げるか。</li> <li>・今年度の募集戦略 10 項目のうち、早急に進んだ部分と出遅れ気味の部分（退職教員の高校訪問）、思った以上に進んでいない面もあり。教員に退職時に高校訪問専任として依頼している大学もあり。高校訪問退職教員への報酬をどうするか？</li> <li>・東京等の大都市圏など、同窓会や卒業生への協力→同窓会は来年の総会（6月）を経ないと各県支部（11支部）で動けない。手続き的なものでなく、積極的に活動いただける方を。</li> <li>・同窓会としては、同窓会経由で入学してきた学生に減免制度（5万円）を導入意向。原資は同窓会より未来創造寄付金に。制度化の手続き。年間 50 万円予算化。同窓会長は予算執行についてペンディング。具体的な中身を大学側より提示し、来年 4 月入学者から適用出来るように動く。学長中心に各支部の総会や役員に出向いて依頼や情報発信を行っている。</li> <li>・受験雑誌など紙媒体に約 700 万円や 1 社何百万の経費。役にたっているか？削減すべきでは？→雑誌と HP 掲載のセットも多い。高校訪問の旅費など、予算の中身の比重を大きく見直す必要。進学雑誌は、高校現場も 1 冊程度しか活用していない。大幅に削減してよいのでは？</li> <li>・高校訪問担当の先生→2 人で地域を分担。島原地区や県北など成果が上がりつつある。</li> <li>・今年度、本学がセンター試験の試験会場。本学会場で受験した生徒にも本学受験をアピール。手違いのないように実施。</li> <li>・高校の先生含め、人のつながりが大事。</li> <li>・HP もレスポンス化など大幅に改訂したが、変更は随時やっていく。</li> </ul>

	<p>◆在学生、卒業生に関する情報発信（ホームページ・ブログ）（随時）</p> <p>左欄.13</p> <p>◆専門学校、高等専門学校への情報発信（ホームページ・訪問）（随時）</p> <p>左欄.14</p> <p>◆進学アクセスオンラインによる情報管理、分析（随時）</p>	
<p><b>【入試制度】</b></p> <p>1.文部科学省「高大接続改革」に係るアドミッションポリシー（入学者受入れ方針）、及び2021(令和3)年度入試制度の検討</p> <p>2.入学試験科目の検討</p> <p>3.学生募集要項の検討</p>	<p>左欄.1</p> <p>◆2019(令和元)年度第5回代議員会（2019.6.19）において、長崎総合科学大学アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）、及び2021(令和3)年度入試制度について協議決定。</p> <p>◆2021(令和3)年度入学者選抜についてホームページに掲載(7月)</p> <p>左欄.2</p> <p>◆2021(令和3)年度入学試験問題及び問題作成者の検討（12月）</p> <p>左欄.3</p> <p>◆次年度学生募集要項の検討（12月）</p>	<p>・高校側は入試改革に関心。本学の評価方法やプレゼンの中身など。入試改革の明確な本学方針を早急に提示できるように(HP掲載済)。</p> <p>・入試制度が大きく変わるなか、大学の序列化も進む。</p>
<p><b>【入学時奨学金制度】</b></p> <p>1.特待生制度の見直し</p> <p>2.学費減免制度の見直し</p>	<p>左欄.1</p> <p>◆2021(令和3)年度入学者選抜に係る特待生制度の見直し（12月）</p> <p>左欄.2</p> <p>◆2021(令和3)年度入学者選抜に係る学費減免制度見直し（12月）</p>	<p>・2021年度入学時奨学金制度(特待生制度・学費減免制度)の見直しは、12月ではなく10月に修正。</p> <p>・入学時特待の1年生の予算は、入試の予算として、どう活用していくか検討してほしい(予算化された3千万だけでなく)。</p>
<p><b>【高等教育無償化の対応】</b></p> <p>◆2021(令和3)年度入試における高等教育無償化の支援対象となる受験生への対応についての検討</p>	<p>◆受験生への対応案策定（10月）</p>	
<p><b>【入学式】</b></p> <p>◆入学式の開催方法、式次第の検討。</p>	<p>◆次年度入学式の検討（12月）</p>	

<p>&lt;学務政策課&gt;</p> <p><b>【コース制導入の検証】</b> ◆コース制導入の目的として「より深い専門分野に加えて、専門分野を取り巻く幅広い理解力を身に付けた付加価値の高い人材を世に送り出す教育を開始している。」としている。令和2年度からようやくコース制導入の目的に沿った具体的な教育プログラムがスタートする。コース制導入の教育研究上の利点の具現化を支援する。</p> <p><b>【留学生確保の現状と今後の対応】</b> ◆外国に居住する外国人に対しては、別科日本語研修課程、学部及び大学院への入学者募集を国際班が担当。国内に居住する外国人に対しては、入試課が学部・大学院への入学者募集を別科日本語研修課程及び国内の日本語学校等に対して行っている。外国における留学生募集について本学独自にできることは限られており、長崎県や各種団体との協力及び状況によって業者へ委託するなどして募集活動を行うことになる。</p> <p><b>【高大連携の促進】</b> ◆附属高校との連携のみを高大連携会議では取り扱っているが、連携対象を他の高校へと積極的に拡大して、高校との教育・研究活動を通じた新たな信頼関係を拡大する。</p>	<p>&lt;学務政策課&gt;</p> <p>◆コース制導入後の入学者数の推移は確認できるが、コース制を導入した時の教育研究上の目的を達成するために取り組まれたであろう取り組みを再チェックする。今後の改組等に活かす。</p> <p>◆学外団体と協力しての募集活動を継続する。</p> <p>◆留学生特有の諸問題の洗い出しと具体的な対応策を明らかにして（10月までを目途に）、本学が受け入れ可能な留学生数（学部・大学院、別科）を想定し目標値として学内に周知する。</p> <p>◆外国の大学との協定について目的と計画を明確にして学内で情報共有しながら、計画的に進める。</p> <p>◆大学として高校教育に協力するということは、高校生の専門領域への興味を拡大させたり、高校の先生では指導能力が不足することに大学教員が助力したりと多様な連携が考えられる。</p> <p>◆入試課の高校訪問と連携して高校との信頼関係の拡大を進めることが必要と考えるが業務をどう分担できるかを検討する。</p>	<p>&lt;学務政策課&gt;</p> <p>・新しい3つの教育プログラム→インパクトのある中身になっているが、具体的な運用の面で、先生方にも温度差有。認証評価でも3期に入り、着目点が「やった」だけでなく「やってどう効果が出たか」も求められている。シラバスの作成。学務政策で交通整理、サポート。</p> <p>・大学間交流協定→現在も全て続いている。実際の編入、留学などは資料のNO.6~NO.14の最近締結したもの。2校新たに協定締結予定(ベトナムのダナン/日本語学校と大学)→別科入学や学部編入。ベトナムから10名程度4月入学が見込める。IHパートナーズ経由はベトナムからは今年難しい(附属は話あり)。ベトナム都市部の学生は真面目。農村部の学生は貧しい学生が多いので、アルバイト中心になる。入試の際の面接重要。</p> <p>・五島市が民間の日本語学校に補助金を出し、留学生の受入促進予定。</p> <p>・来年4月見込み→インド10名?ベトナム10名?中国未定。9月末ぐらいに予測がつく。寮の受け入れキャパの問題あるので、想定と対応策。</p> <p>・別科代表の先生より定員30名目標。在籍中のインドの学生→3名程度大学院進学希望。</p> <p>・留学生の保険料負担は?→来年4月入学者の健康診断→衛生委員会に問題提起、国際交流委員会を開催し、方針を決定。</p> <p>・高大連携→募集にも繋がってくる。</p>
<p>コース等の取組</p>		
<p>&lt;大学院&gt;</p> <p>1) 学生数増加対策としては、1)学内進学者、2)留学生、3)社会人学生に頼るしかないと考えている。 1) 学部入学時から、家族、本人の意識改革を継続的に進める。 (大学院進学率 38%@H30 / 18%@H3) 2) 中国 14 大学と協定を結んでおり、修士の学生が期待できる。 3) 社会人受入れに関しては、単位数を見直す必要あり。 又、いきなり大学院受入れではなく、共同研究、リカレント教育等を通じた下準備が必要であり、地道に進めていく。</p> <p>2) 英語圏からの受入れ ◆講義の英語化は学内進学者との関係で難しく、別コースを作る 或いは英語での講義を新たに開設するしかない。 ◆英語化を進めるには、科目毎の単位数を見直し、修得科目数を減らすことも考える必要あり。これは社会人受入れ促進にも波及する。</p>	<p>&lt;大学院&gt;</p> <p>1) 今年度（'19.10, '20.4 入学者）の募集状況 博士課程確定1名、応募4名(予定) 全て社会人 修士課程応募0名（以上'19.10 入学） '20.4 入学については、7/26 に進学説明会を実施し、確認する。 (5月説明会では数名が出席)</p> <p>・'19/10 応募4名中は共同研究などで関係のある方々であり、この点からも継続的な活動が必要。</p> <p>2) 留学生受け入れに関して ◆講義の英語化は、留学生の増えた系列と出来るところからやっていく。 ◆日本語能力のない留学生(含む研究生)受け入れに関しては、講義だけでなく、1)事務処理、2)病気・怪我などの緊急時対応にも問題があり、大学院だけでなく全学的な検討の枠組みが必要。</p>	<p>&lt;大学院&gt;</p> <p>・今年度募集状況のうち、修士課程については、7/26の進学説明会に16名出席(4年10名、3年6名)で、来年度入学予定者はあまり大きな数は見込めない状況。</p> <p>・今、一番可能性が高いのは留学生。特に中国からの留学生。こちらが門戸さえ開けば、志願が見込める。</p> <p>・講義の英語化はなかなか難しい。博士課程は英語で講義可能(条件つけていない)。修士課程は日本語試験受験で一定レベルが条件。</p> <p>・中国の大学とたくさん協定を結んでおり、中国ではドクターを持っていない大学教員も多いので、修士も博士も可能性がある。</p>

- 修士出願予定者の内訳→生産 1、情報と環境が半々。波がある。今は就職が良い。推薦の枠は変更なし。全国の大学院進学率 38%。国公立だけだと 80~90%。本学は 10%前後。有名私学などは 40%以上なので、本学は少ない。地道に 1 年時から意識改革。個別に学生への働きかけが必要。
- 社会人が入りやすくするため→単位の見直しや演習科目を増やすなどの工夫が必要。退職してからの大学院進学は少ない。働きながら、現在の仕事にプラスになる知識や技術を身に着けたい人が多い。大学院で学びたいと思わせるモチベーションやきっかけづくりが必要(勉強会の開催、共同研究、リカレント教育)。働きながら学びやすい履修の仕組み。
- 過去にも委託研究生から大学院進学。会社から派遣されており、相談もしやすい。
- 系統の見直しは、科目の取り方など、運用のしやすさの面での見直し案。医療が電子情報に含まれているため、3 専攻のまま、医療を前面に出すやり方など、総合的に検討。3 専攻の中身が現状と乖離しつつある。船舶や機械も前面に打ち出す方法もあり。
- たたき台をもとに、ワーキンググループを作って、12 月中に方針を打ち出す。学部学科コース改編と完全切り離せないため、学部の方針との整合性をとる必要あり。学部・大学院とも来々年(2020 年)の 6 月までに結論を。2021 年 6 月公表。2022 年 4 月スタート。
- 国の方針で高等学校普通科は見直しの方向性。文理でなく、4 つぐらいの類型に将来的に見直されていく。高校・大学・大学院も同じ流れでつながっていくとよい。本学の先生方が力を発揮できる配置と併せて検討。
- 他大学からの本学修士への取り込み→パンフレット・要項は送っているが、個人の先生の紹介に頼らざるを得ない部分あり。

<船舶>

◆定員30名の内訳として、遠隔地10名(船好き)、九州等近場15名(ここが問題!), 附属高校5名を目標とする。併せて、在籍者数の維持に努める。なお、近年の入学数とその後の変遷は下記の通りである。

1年生:24 2年生:20-1(退)  
3年生:18-1(退)+1(編) 4年生:34+2(編)-3(退)  
留年生:2  
充足率 = 96/120 = 80.0 %

◆高校訪問, 総合学習・体験学習・OCの充実、活動状況の発信(DM発送、HPのリニューアルなど)、就職先の確保、などを通じて、船舶の魅力をアピールする地道な努力を重ねる。

◆高専(弓削商船高専など)からの編入を続ける。

◆船舶工学の力学的基盤“3S(Speed(速力), Stability(安定), Strength(強度))”の教育を前面に掲げることにより、一般入試やセンター試験で志望してくる進学高の学生に、学問的な魅力をアピールする。  
この基盤3Sを応用することで、海洋開発や再生エネルギーの分野への進出も、可能である!

【知名度向上】

◆各種イベントには積極的に参加し、知名度を上げていく。ただし、各教員の負担が増えているので、この点を考慮しつつ実施して行く。

◆本学HPを活用し、最新のニュース・活動状況を情報発信する。  
昨年度、研究論文の公表が、当コースで計5篇(航海学会誌に1篇、舟艇技報に2篇、船舶海洋工学会・講演論文集に2篇)であった。業務に忙殺されることなく、地に足を付けて、研究成果を学会に公表する意識を持つ。

<船舶>

◆造船科のある工業高校訪問

従来からの長崎工業、下関中央工業、高知県立須崎工業に加え、新たに今治工業[機械造船科]、香川県多度津高校[機械科船舶コース]、玉野商工高校[機械科]に造船系のコースが設けられた。これら高校の訪問で新たな入学者の確保を狙う。

◆九州運輸局の次世代人材育成PJへの協力

長崎地域造船造機技術研修センターで企画・実施している長崎市内の高校生を対象として造船業の体験研修会への協力(昨年実施した瓊浦高校の研修会は、本年度も引き続き実施。加えて、長崎工業の体験研修会の企画を計画する)。

◆船舶系高校の修学旅行における体験学習受け入れ

神奈川県立海洋科学高等学校の修学旅行を活用した船舶に関する体験学習(2020.12.10ごろ)

◆附属高校からの入学確保

- ・入試課の企画であるオープンキャンパス(7/10)および総合学習(7/9, 9/4, 9/12, 10/17)の活用
- ・附属高校の先生方との懇親会の企画。

◆NIAS セミナ・体験学習の活用

- ・佐世保西高校(7/26):「船が出来るまで~造船の仕事」:
- ・島原高校 1年生39名(7/31):「船舶試験水槽で(雲の上水槽)で実験してみよう」

◆オープンキャンパス(7/21, 8/4, 9/16)

船舶工学コースの紹介時間を確保し、船舶工学の学問領域や海洋開発・再生エネルギー分野への応用について、学生にアピールする。

◆在校生の母校へのダイレクトメール

本学の新生募集に対するご支援へのお礼を送付。併せて、船舶コースの活動状況として「船舶ニュース」を同封し在校生の近況を併せてご報告した(約100の高校へ発送済み)。

◆船舶コースの各種活動内容の情報発信

- ・定期的な(最低1ヶ月に1回の)「船舶ニュース」の発行
- ・船舶のコースHPをリニューアル、船舶のイベント等のニュースを定期的に掲載

◆就職先に大手企業を確保することによる本コースの魅力PR

船舶コース主席の学生を、三菱重工・長崎造船所に就職させる道を、拓けないか?

◆各種イベントへの参加

- ・「長崎帆船まつり」への参加や(4/19-20),
- ・毎月、月末の日曜日に伊王島朝市会(漁協主催)へ参加。ROVの操縦体験を実施中。
- ・KTN“海と日本プロジェクト”ヨット教室の支援(7/27)
- ・「夏休み・おもしろ船教室(日本船舶海洋工学会海洋教育イベント)」「(やがみクラブ40名)(8/2)
- ・小値賀町 土曜学習応援団 海洋エネルギー工作教室(8/6)
- ・大村 海洋エネルギー啓発教育(8/19)
- ・伊王島 ROV 組立教室(伊王島漁協、地元NPOとの共催)8/20
- ・青少年科学の祭典 イベント参加(10/19-20)
- ・千葉県立産業科学館イベントの支援[ROV組立教室](11/4)

◆本学HP活用で最新のニュース・活動状況などの情報発信

- ・「長崎帆船まつり」にイベント参加(4/21)
- ・野瀬客員教授が開発した海中ロボットが長崎新聞に掲載(4/29)
- ・鹿児島口之島沖で海流発電装置の実証試験を実施(5/7)
- ・松岡准教授の解説「ヨットの魅力って」が長崎新聞に掲載(6/8)

◆論文発表

研究成果を論文にして、学会に公発する。特に、1年に1篇は、船舶の教員から、船舶海洋工学会論文集に、公表できるよう、コースとして頑張りたい。

<船舶>

・造船科のある高校→今年新たに3校増。直接訪問はまだだが、中国地区造船協議会や長崎工業が造船系の高校を集める会合に出席。

・定員充足率80%→100%へ向けての課題。附属高校からの入学者が減。卒業研究が厳しいという噂など。県内も三菱の影響が厳しい。半分以上は県外。

・造船奨学生制度→まだ、具体的な話はなし。ある企業に入ることが前提の奨学金。制度の見直しが必要。

・本学で唯一の全国型のコース。県外からは、造船系の学校にターゲットを置く。県内私立からも減少。「船舶」がつく大学は本学のみ。

・母校へのダイレクトメール→船舶工学コースのニュース。建築ではフォーラムの感想文。

・知名度向上→体験学習や教室などメディアで紹介多数。

・瀬戸内海近隣の大学の造船系は、逆に縮小。長崎は造船発祥の地であり、高等教育機関という意味では充実しているので、アピール。

・四国近隣→造船需要あり、造船もっている。景気が悪いのは大手重工系列のみ。求人は1人あたり3社ぐらいある。高校生にもPR。

・従来型の船舶を守りつつ、新しい分野のロボティクス、海洋工学なども、積極的に打ち出して行く。北極海「しらせ」に憧れて入学してくる学生も。

・海中ロボットは船舶と知能。新しい分野の取り組みをHPでもPR。

<機械>

- ◆毎年、入学後の高校名と入学数を確認し、その年度にあった趣向を凝らした高校訪問を実施し、その対策効果を検証する活動を行う。工業高校（けいほ、佐世保実業ほか）の先生と連携し、AO入試の受験数確保に努める。
- ◆機械のHPを随時更新し、高校生や親に興味をもってもらう活動をする。
- ◆中途退学者を減らし、かつ父母に安心してもらうため、出口の就職先で上場している大手企業もしくは地元の優良企業へ在学学生を就職させる。
- ◆父母懇親会で来校した父母へ子弟の大学生活の状況を把握してもらうため、パンフレットを作成し配布する。
- ◆在学中に学会活動に興味をもってもらいまた参加させることで、大学院への進学を促す活動をする。
- ◆市内で行われる科学イベントや電動バイクの大会へ参加し、機械コースの紹介に努め、高校生に機械工学に興味をもってもらう活動を行う。

【高校生へのコースのアピール活動】

- ◆NHKロボコン、科学イベント、電動モビリティコンテスト、機械関連学会コンテスト（スターリングエンジン、設計技術、自動車の安全等）へ参加する。
- ◆NiASセミナーや進路ガイダンスによる研究とコースの紹介、体験学習による科学実習の実現。
- ◆HPの内容更新。
- ◆大学へ来校する企業訪問者、大学関係者や高校生のために、研究室を紹介するポスターを作成する。

- ◆令和元年度は、コース長の案（今年度入学した高校と実績のなかった高校）を中心とした9高（東、南山、海星、北陽台、鹿町工、けいほ、長崎工、創成館、南）への訪問を6月から開始し8月の夏休み前までの実施を予定している。
- ◆機械の年間行事（入学式、フォーラム旅行、工場見学、卒業式、学会での講演）と学生の学会活動にあわせ、HP上にブログ形式で内容のアップデートを随時行っている。
- ◆協和機電工業（4）、協和機工（1）、長崎バス（1）、システムファイブ（1）、アルトナー（1）内々定。
- ◆大学院への進学は、0名を予定。
- ◆機械工学通信（近況報告）を父母懇親会の開催時期に合わせて、6月（配布済み）と9月に発行する。
- ◆8/21にスマコマながさき活動の一環として、当学で高校生と大学生との交流会を開催する。県内の工業高校等から参加予定（平子）。
- ◆10/19、20の第23回青少年のための科学の祭典（長崎市、黒田）へ参加、11/10の第6回電動モビリティコンテスト（長崎市、平子）へ参加を予定。
- ◆8/21にスマコマながさき活動の一環として、当学で高校生と大学生との交流会を開催する。県内の工業高校等から参加予定（平子）
- ◆10/19、20の第23回青少年のための科学の祭典（長崎市、黒田）へ参加、11/10の第6回電動モビリティコンテスト（長崎市、平子）へ参加を予定。
- ◆入学式、九州電力による講義、フォーラム研修旅行の内容を行事の後すぐにアップデートした。

<機械>

- 今年度入学者13名、前年度25名。入学実績のある高校への訪問中心(本学・学生状況の説明と高校側の状況把握)。他コースでは、研修旅行の感想文をアピール材料に。定員35名の確保は出来るのか？
- 全国の大学で150の機械系があるなか、設備・機器も老朽化しており、工業高校等へのアピールも出来ない。売りも言えない状況。→先生方の専門分野で、新たな研究獲得や外部資金の活用もあり得ると思うが、動きが見えない。科研費も応募していない。シリ貧、マイナスのスパイラル。他大学の機械も同じか？→機械系の志望は減。重工業に対する憧れも衰退。航空宇宙産業はよいが長崎には企業がない。
- ヒアリングにも1名しか参加していない(欠席者には理由あり)。出席者も多く、コース内の共有、役割分担が出来ているコースもあり。他コースとは分野の仕組みも違うが、意思統一、意識改革が必要。課題の共有(予算措置や人員配置含め)。学長にも1年に1回インタビューしてもらうように依頼。教員にはノルマがない。
- このような状況下で既存のコースのまま、やっていく意味があるか？新しく組み立てが必要では？→学長と再度、話し合う機会を。機械と電気はゼロから出発するつもりでドラスティックに再建が必要。若手の先生も研究等においても、積極的に取り組んでいない。教員全体のモチベーション向上が必要。
- ロボット工学の新プログラム→ロボット専門の教員不在。副学長からもコースの将来像や新しい構想が出てこない。ロボットか航空宇宙関係かの議論で、ロボットが現実的だろうとの結論。
- スマコマなどのイベント参加もしているが、全国規模の大会やコンテスト参加は、経費や担当できる教員などの問題で厳しい状況。
- 機械のHP→内容の問題、見にくさなど。

<p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆毎年、定員の30名を満たす。</li> <li>◆現在は、4年生26名、3年生41名、2年生46名、1年生33名で満たしている。</li> <li>◆3年生の41名、2年生の46名にかかる教員の労力が超過。現在はなんとかしのいでいる状態。学生数が定員の2割以上超過するときは、TA 予算追加等を検討してほしい。</li> <li>◆教員の教育研究活動を積極的にアピールし、建築学コースの存在感を示す。</li> </ul>	<p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆工学フォーラム（1年生）の建築見学研修レポートを「母校への手紙」として、卒業高校に送った（5月末）。受け取った高校の先生方から、嬉しかったとのコメントあり。</li> <li>◆入試課の高校訪問にも、「母校への手紙」が活かされている。</li> <li>◆依頼のあった進路ガイダンスに積極的に応じる（5～3月）。</li> <li>◆展覧会「大工・川原家の教会堂建設」実施（5～6月）、ものづくり体験2019（8月）、長崎県建設技術フェア（10月）、長崎県住宅フェア（11月）、全国大学卒業設計展（11月）、各教員の研究発表（4～3月）。</li> </ul>	<p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 定員30名を毎年超えている。留年生も減。入学者数が増えた要因は、一級建築士の資格取得の要因が大きいのか？具体的な対策は？→教員全員での募集活動を危機感を持って、取り組んだ成果。具体的には、卒業時にカラー版のコース案内を作成(卒業研究、教員の研究活動の紹介)。進路ガイダンスやオープンキャンパスで配布。4年生に対するしっかりとした指導と在学生の頑張りにつながっている。</li> <li>• 建築は船舶と並んで、入学募集の本学の大きな柱。</li> <li>• 1年生の工学フォーラムの研修レポートを「母校への手紙」として高校の担任の先生宛に送付。高校にとっても非常にうれしい情報。→全学的に取り組むべき。大学より専門学校のほうが、その辺は熱心で募集に長けている。</li> <li>• AO入試での入学者の1/3が建築。入試制度とのマッチングができていないか？→工業系でマイスター資格取得者か、附属高校で運動系の生徒が中心だが、後者はいかに飽きることなく、授業に取り組んでもらうかが課題。体育会系は就職は重宝される。単位を取る過程が課題。</li> <li>• 展覧会や企画会、卒業設計展、住宅フェア等のイベントも学生と協働で実施。新聞にも先生方の研究が露出。</li> <li>• 頑張る学生、自ら学びたい学生もおり、頑張る場を与えたい。オープンキャンパスでも女子が目立つ。頑張る女性も応援したい。</li> <li>• 一級建築士以外の現場監督等の道を目指す流れ・道を明確に打ち出すことは可能か？→あることはあるが、募集上の効果は見込めない。</li> </ul>
<p>&lt;電気&gt;</p> <p>(1) 現行コースの中に新たな履修モデル(プログラム)を新設する 昨年度のヒアリングの際に示した他コースを俯瞰する形で新モデル(プログラム)を立ち上げ、「拡大」を前提に本来の意味でのコース制の利点を全面に押し出した形でのコース再編に取り組む。</p> <p>(2) 改組完了後のより魅力的なカリキュラムへの改定 全学年共通科目の電気電子工学演習8科目(1単位科目であり卒研着手には3年生までに3単位以上の取得が必要)を2018年度に新設して1年目の講義(1A,1B)を実施した。2019年度(令和元年度)からは、1,2年生が同じ時間帯・教室で講義を実施することになり「人に教えること」を経験して知識や技能の定着を促し、学年を超えた学生間の繋がりを促進する。</p>	<p>&lt;電気&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆機械工学コース、知能情報コースおよび電気電子工学コースの3コースを軸にして科目を横断するプログラム(ロボット工学プログラム、AIシステムプログラム、IoTシステムプログラム)を新設する準備を開始した。このプログラムは来年度からの実施(高校生への募集紹介)を目指しており、担当者による開設科目および履修系統図案を作成して教務委員会での議論も開始した。</li> <li>◆1年生を対象に「電気電子工学演習1A,1B」をスタートした。1年生は、電気電子工学を学ぶために必要な数学や英語の基礎、2年生は専門科目の演習を中心に行う。加えて4年生の卒業研究の各発表会にも参加させ電気系の研究内容に触れる講義計画として学年を超えた繋がり、仲間や教員とのディスカッションの場を設ける。本年度末には、2年間の実施結果の検証を行い、次年度(3年目)の講義計画の再検討を行う。</li> </ul>	<p>&lt;電気&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 新たな履修モデル(プログラム)→機械・知能・電気の3コースを軸に科目横断型プログラム(ロボット、AI、IoT)→人手不足の中で、いかに合理化、IT化するかが課題。電気電子 or 先端理工学。</li> <li>• 新プログラム→現在、実質の運用方法検討への移行段階。新プログラムでの反応を見て、コース改編につなげる。</li> <li>• 現在の流行→先端理工学。「理」を付けたコース。物理、化学。基礎科学の部分も。学部を作る際は基幹教授、コアカリキュラム必要。</li> <li>• 九州の他の私立大学の電気電子は？→崇城大学など早くから名称変更。就職の窓口は電気電子部門として、新しいコース(プログラム)を開発する方法あり。就職口も上手く機能させることも可能。</li> </ul>

<p>(3) コース情報の発信</p> <p>入学者数は低迷（定員割れ）しており緊急課題である。</p> <p>令和元年度の1年生入学者の実績は25人定員中10名であった。</p> <p>大学生活・就職内定状況や研究などのコースの特徴について情報発信は下記を実施する。</p> <p>[①-3a]高校教員に向けた情報発信を積極的に行う</p> <p>[①-3b]高校生に向けた進路ガイダンス、NiAS セミナーに可能な限り参加する</p>	<p>[①-3a]昨年度に引き続き下記を実施していく予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆高校教員との連携強化として、卒研(4年生)が高校恩師に向けた手紙(就職内定先の報告および4年間の感想と今後の抱負)を、10月の内定式後に送付する。また、高校の進路指導教員やその他の教員に対しても、就職先リストや研究内容の情報発信を同時に行う。</li> <li>◆1年生の高校恩師に向けた手紙(入学後4ヶ月の感想と今後の抱負)を、8月上旬に送付する。</li> </ul> <p>1◆ドローン部の学生の主体的な行動を学生募集につなげるべく高校を訪問して組み立て・操縦体験活動を継続して実施する(昨年度の実施は、長崎工業高校、佐世保工業高校、鹿町工業高校の3件の実施を行った)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆今年度は、学生へのドローン製作体験だけでなく、長崎県下の工業高校電気科教員を対象とした「教職員ものづくり技能伝習研修」で、大村工業高校でドローンの研修を12月に開催し、工業高校電気科教員との連携を更に深める。</li> </ul> <p>[①-3b]昨年度はNiAS セミナー3件(島原高校、大村高校、大村工業高校)、進路ガイダンス5件(宮崎県立日向高校、沖縄県立知念高校、大村工業高校、鎮西学院、西海学園)などを実施した。</p> <p>本年度も2019年6月末時点でNiAS セミナー2件(大村 2019/11/18、大村工業高校2019/12/13の依頼)、高大連携講座1件(島原高校 2019/7/31)、進路ガイダンス1件(福岡県立筑前高校2019/6/14)を実施予定であり可能な限り参加する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•過去の経緯＝電気工学科→電子工学コース開設→電気電子情報工学科→医療電子コース開設→電気電子工学科、情報学部知能情報学科へ本体部分が電気電子工学コースとして残り、今年度10名の入学者に減。</li> <li>•看板をどうするかは、大きな判断。同窓生も含め相談し検討要。過去に船舶をどうするかも議論になった。</li> <li>•コース制プログラム制となり、トータルで何名集められるか？電気電子の企業との繋がりや同窓生との窓口をどうするか？→新創研の電気電子情報部門のカテゴリーのコースとして位置づけ。電気電子を無くすのは、本学の財産としてリスク大。</li> <li>•教員のラインアップは素晴らしい。本学の教育もレベルアップ→本学の電気電子に人が集まらないギャップ→国立大学の推薦枠 15%→30%へ倍増→工業高校の進路が埋まる→本学の専門高校推薦枠からの入学者減少。長大と同じ名前のコースは厳しい。</li> <li>•普通高校からトラディショナルな学科への志望は少ない(ミスマッチ)。</li> <li>•看板の掛け替えが必要なのか？3つのプログラムの構築からコース化への促進で解決できるか？→プログラムとして開設し、様子を見ながらコース化へ。</li> <li>•強電はニーズはあるが、全国的に減少し設備費用がかかる、いつまでやるか？→電気電子部門として形だけ残す方法あり。電気主任技術者(設備とリンク)の免許をどうするかが、キー？コスト面優先に考えると「電気主任技術者」をどうするか？無くすと、強電はなくなる、設備負担はなくなる。強電系の就職実績は大手中心で求人豊富</li> <li>•NiAS セミナー等の募集へのフィードバック。学科の高校訪問、情報共有やフォローアップ。NiAS セミナー、教員実習等での訪問。</li> </ul>
<p>&lt;医療&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆2007年に設立された本コースは、今年で13年目となる。当初は入学者数25名で始まり、その後、入学者数が増加し、この数年間は毎年40名前後で、常に定員30名を上まっていた。その背景には、1)医療には不景気は無く、2)医療機器の進歩に人が追いつけず、医療事故が増加している時代の流れに因るものと分析していた。しかしながら、今年度は、入学者数が29名と減少した。この原因としては、従来より、医療工学コースには、推薦入試で入ってくる学生より、センター試験を介して多くの学生が入学してきた(資料1,追加資料)。今年度は、一般入試を介する受験者が減少していた(資料2,追加資料)。この要因としては、長崎市における少子化、医療工学コース技士に充足化などが推測される。これからの3年間の目標として、毎年30名位上の新入生を目標として、退学者を少なくして、全学年の学生数120名以上を維持して行きたい。その目標を達成するために、従来からのオープンキャンパス</li> </ul>	<p>&lt;医療&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆従来より、1)オープンキャンパス、2)学校訪問、及び、3)ホームページ(HP)の充実を行ってきた。具体的には、1)は、長崎の地元の学生を対象として、臨床工学技士の魅力を十二分に宣伝したい。2)は、これまで通りにこれまでの実績のある県外の高校訪問を行なって、県外の学生を引っ張ってきたい。3)は、H28年度に医療工学コースのHPを開設した。H29年度は、iPhone用のHPも作成した。H30年度も、より多くのアクセス数を稼ぐために、HPの内容を充実させて行きたいと考えている。現在、医療工学コースの清水が担当し、当コースの紹介や、HPアクセスの分析を行っている。HP開設当初より、毎月1回の当コースの近況報告をルーチン業務として、行っている。その効果に期待をしている。</li> </ul>	<p>&lt;医療&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•入学者減の要因→一般入試(センター試験利用)での志願者減、少子化に加えて、九州各県に、ここ数年、医療工学系の学校が増加。</li> <li>•毎年入学者維持に感謝しているが、入学者目標30名に切り替えは、早過ぎないか？→定員は30名。県内からが多い。県外からが減少。</li> <li>•県外の臨床工学技士の養成のための学校増加→大学1校、他は専門学校。専門学校との教育内容等の差別化の打ち出し。</li> <li>•附属高校でも人気のコース。難しいイメージ。</li> </ul>

や学校訪問、及び、医療工学コースのホームページ(HP)を充実させたいと考えている。

**【アジア(中国)グローバル化の対応】**

◆今後も少子化のために、当大学の入学者数が減少するものと推測される。その流れに歯止めをかけることは困難と思われる。入学者数を増やす対策として、アジアの国々から、医療工学コースの学生を募集したいと考えている。近年、医療業界を取り巻く環境は、本邦だけでなく、中国などのアジア諸国で、工学と医学を学んだ大学卒業者が求められている。国家資格としてのシステムが構築されているのは日本だけで、中国やインドなどではそのようなシステムが無く、医療工学に関する先進的な学問の提供する場が少ない現状である。そこで、本医療工学コースを以下の3種類の内容にしたいと考えている。1)臨床工学プログラム(国家資格を得ることが目標)、2)医用工学プログラム(医療系企業に必要な知識を提供)、そして、3)国際医療工学ビジネスプログラムである。

左欄の1)と2)は、既に行われているプログラムである。今後、3)国際医療工学ビジネスプログラムが、3年後に十分に成立するかと検討して行きたい(資料5)。

- 臨床工学、医用工学、国際医療工学の3タイプのプログラム・教育システム。
- アジア諸国等のグローバル化の対応
- グローバル化→どのタイミングで、どう打ち出すか?
- 国際医療工学の分野→入学時から分ける。医療工学コースの教員だけではできない。他コースの先生方の協力も必要。学科横断的な教育プログラム。
- 国家試験受験までのロードマップ→国家試験受験者を増やしていく。
- 国家試験受験学生と民間企業受験の割合は、民間企業受験の割合が増えつつあり、4:6ぐらい。理想は、企業受験でも国家試験を合格して受験。
- 国家試験不合格者→研究生として、フォロー。一級建築士、臨床工学技士など、国家資格(高い目標がある)があることは大事。
- 臨床工学技士の国家試験を知っている高校教員がどれくらいいるのか?
- 臨床検査技師や看護師資格を持っている方を受け入れ、臨床工学技士を1年で合格させるのは難しい。逆に臨床工学技士の資格を持っている専門学校卒の方が、大学の学位を取得するため、入学してくるケースはある。
- 医療工学コースのHP→スマホ等のモバイル端末にも対応。

<知能>		<知能>		<知能>																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2014</th> <th>2015</th> <th>2016</th> <th>2017</th> <th>2018</th> <th>2019</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>志願者</td> <td>49</td> <td>62</td> <td>57</td> <td>53</td> <td>52</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>合格者</td> <td>42</td> <td>54</td> <td>52</td> <td>49</td> <td>49</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>入学者</td> <td>29</td> <td>32</td> <td>34</td> <td>33</td> <td>29</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table>		2014	2015	2016	2017	2018	2019	志願者	49	62	57	53	52	59	合格者	42	54	52	49	49	52	入学者	29	32	34	33	29	32				
	2014	2015	2016	2017	2018	2019																											
志願者	49	62	57	53	52	59																											
合格者	42	54	52	49	49	52																											
入学者	29	32	34	33	29	32																											
<p>◆今年度は志願者が若干増えたものの入学生はほぼ例年通りの32名であった。1/3が推薦、1/3が一般入試、1/3がセンター試験であるのも例年通りで特に変わっていない。</p> <p>長崎大学が来年度から情報データ科学部を新設申請中で、良い学生がそちらに取られないか懸念しているが、全体としては対象となる受験生がそれほど重なるとも思えず、これを機に本学に知能情報コースがあるということをアピールできればと考えている。募集の方針は従来と変更なく次の5点とする。</p> <p>①出張講義を通して学生に直接語りかける機会を増やす</p> <p>②担任や進路指導とのつながりを深める</p> <p>③HPやパンフレットを通して、コースの教育内容を具体的に示す</p>	<p>&lt;知能&gt;</p> <p>◆①から⑤まで、基本的にはどれも並行して実施していく。</p> <p>◆11月よりAIシステム(仮称)プログラムの中心となる教員を補充する予定で、5人体制で新プログラムはもとよりコースの教育の質を高めていく。また、ノートパソコン必携化にともない、講義の仕方を再検討し、情報系の学科としてふさわしい学生の育成を目指す。</p> <p>◆一昨年度より、土曜学習応援団(長崎県生涯学習課)として離島や県北などで出張ロボット教室を開いているが、今年度も既に10件を越える応募が来ていて応援団の中でも一番の人気を集めている。対象は小中学生なので直接的には募集に結びつかないが、参加者に楽しんでもらうこと、保護者や関係者にいい印象をもってもらうことが間接的にでも良い結果を生むとの思いで地道に取り組んでいる。</p> <p>◆NHKロボコンやETロボコン、トマトロボコンでの活躍、あるいは高校生に向けたNiASセミナーでの講演はもっと直接的に志願者の増加につながっている。何人もの(優秀な)学生がテレビや新聞での報道や講演を見聞きして本学に興味を持ったと言っている。また、企業や実行委員会からの評判も上々で、実際に何人もの就職に結びついている。また、長崎市科学館や浜の町アーケードでのロボット体験教</p>	<p>&lt;知能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学科横断型プログラム→AIシステム、ロボット分野を含め機械と知能との住み分け、差別化。</li> <li>定員35名のうち、毎年30名前後で推移。35名まで増やすには、志願者増が必要だが容易でない。NiASセミナーやロボコンなど高校生に直接働きかけ、効果あり。18歳人口も減少。起爆剤はAI。学力が高い生徒が興味を持って来て欲しいが、現実には厳しい。学力の低い学生を引き上げるのは、現在でも手一杯の状況。</li> <li>新しいプログラム→コースの壁を破って、募集上も看板を打ち出し、社会に送り出していく。問題は、単位取得が難しい学生などを誰がどうみるのか、責任の所在を明確化しておく必要。共有・分担の仕組み。受験する側は、学科の壁はないほうがよい。</li> <li>長崎大学が情報データ科学部を設置認可申請中。分野は重複しそうだが、社会人や大学院重視なので、影響はあまりないと考えられる。逆に本学の知能の知名度向上にもつながればよい。</li> </ul>																															

<p>④講義や就職指導を通して、在校生の満足度を高める ⑤研究活動をもっとアピールし、大学の評価を上げる</p>	<p>室も大盛況で、今年も実施を熱望されている。</p>	<p>・小学校での英語教育、プログラミング教育導入で学校現場も大変。小・中・高等学校でのプログラミング教育もPRしては？県の事業でロボットの出張教室を実施し人気。</p>																																
<p>&lt;マネジメント&gt;</p> <p>◆下表に、本コース入学者数の試験別人数の直近4年間の実績を踏まえた以降3年の目標数を示す。 本コースへの入学者増のためには、推薦での確保も必要であるが、筆記試験の志願者増が欠かせない。推薦試験においては、まず附属高校のスポーツ部以外からの志願者を増やし、引き続き別科からの入学者確保に努める。筆記試験においては、志願者増を目指して、学生を巻き込んだ地域での教育研究活動を増やし、それをコースの魅力として発信する。このことは、本法人以外からの推薦入試による入学者増にもつながると考える。</p> <table border="1" data-bbox="115 762 1187 1148"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>入 学 者 数 ( 充 足 率 )</th> <th>推 薦 試 験 {附属特推} [別科特推]</th> <th>筆 記 試 験 (入学者/志願) {一般}[センター]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016</td> <td>26(86.7%)</td> <td>16{8}[2]</td> <td>10/21{6/13}[3/6]</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>12(40.0%)</td> <td>8{1}[1]</td> <td>4/11{4/6}[0/3]</td> </tr> <tr> <td>2018</td> <td>20(66.7%)</td> <td>14{3}[3]</td> <td>6/8{2/2}[4/7]</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>25(83.3%)</td> <td>15{4}[4]</td> <td>10{6/10}[4/10]</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>30(100.0%)</td> <td>17{5}[4]</td> <td>13{8/12}[5/15]</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>33(110.0%)</td> <td>18{5}[5]</td> <td>15{9/15}[6/18]</td> </tr> <tr> <td>2022</td> <td>35(116.7%)</td> <td>18{5}[5]</td> <td>17{9/15}[6/18]</td> </tr> </tbody> </table>	年 度	入 学 者 数 ( 充 足 率 )	推 薦 試 験 {附属特推} [別科特推]	筆 記 試 験 (入学者/志願) {一般}[センター]	2016	26(86.7%)	16{8}[2]	10/21{6/13}[3/6]	2017	12(40.0%)	8{1}[1]	4/11{4/6}[0/3]	2018	20(66.7%)	14{3}[3]	6/8{2/2}[4/7]	2019	25(83.3%)	15{4}[4]	10{6/10}[4/10]	2020	30(100.0%)	17{5}[4]	13{8/12}[5/15]	2021	33(110.0%)	18{5}[5]	15{9/15}[6/18]	2022	35(116.7%)	18{5}[5]	17{9/15}[6/18]	<p>&lt;マネジメント&gt;</p> <p>◆昨年度のヒアリング時の今年度入学者の目標は入学者数25名、推薦試験利用者14名、筆記試験利用者6名であった。そこでの特徴は、推薦入学者の中で附属高特別推薦の利用者が0名になったが、AOを活用した附属高生が5名いた。いずれもサッカー部や野球部であり、スポーツ以外の生徒は受験もしていない。また、一般入試とセンター入試を併せても志願者延数が10名であり、4名の入学者しかいない。その中でも2名は他コースの志願者の第2志望での合格である。さらに今年度の特徴は留学生が7名と多かった。 今年度は、入学生30名(推薦17名、筆記13名)を目指す。これまでの学生募集活動状況は以下の通り。 6月18日附属高進路ガイダンス(参加4名) 7月10日附属高向けオープンキャンパス(参加24名) 7月21日第1回オープンキャンパス(参加14名) 6/18の進路ガイダンスでは4名と少なかったが、7/10には24名の参加であった。 これは6/18には他の文系のブースに行っていた人たちが来たものと思われる。そうした中で、コースのイメージが変わって興味を持ったという生徒が数人いた。7/21のオープンキャンパスでは、保護者を含めて14名の参加であったが、前日のビジネスプランコンテストの活動報告や、たまたま来てくれたOBによる講話なども組み入れた。参加者の感想を見ると、みな好印象で、特に保護者の印象が良かった。 今後は高校生への情報発信だけでなく、在学生の満足度向上によるイメージアップにも努める。</p>	<p>&lt;マネジメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任の先生方が来られ、活性化。コースの方向性が固まってきた。地域連携→学生と地域を巻き込んだ、理想的な活動。波佐見町など。</li> <li>・来年度以降の募集→しっかり定員を確保出来るように。活性化の波、教育研究活動が、募集にきっちり繋がっていくかどうか？→高大連携事業など、附属からの文系も受け入れ可(環境整備)。</li> <li>・マネジメント工学コースの学問、内容の理解促進。学生中心でPR。</li> <li>・経営戦略の教員としての視点から3点→①高校教員の負担減と高校教員が抱える問題を解決することで本学のイメージを変え、入学促進。②地域と連携し学生を巻き込む活動をメディアに露出。文理融合を地域に宣伝(メディアとロコミ)。③学力の問題→確かに低い(偏差値35~53ぐらいか?)が、何かでつまずいた学生が多いのではないか？背中を押せば十分伸びる余地あり。</li> <li>・留学生→日本人学生との交流活発化。来年度10名の中国からの編入学予定者には、対策必要。留学生の就職先も。</li> <li>・海外からの留学生向けの講座をいくつか検討してみてもどうか。仕込みの中から、本学の教育内容の提供にも結び付けていく(循環化)。</li> </ul>
年 度	入 学 者 数 ( 充 足 率 )	推 薦 試 験 {附属特推} [別科特推]	筆 記 試 験 (入学者/志願) {一般}[センター]																															
2016	26(86.7%)	16{8}[2]	10/21{6/13}[3/6]																															
2017	12(40.0%)	8{1}[1]	4/11{4/6}[0/3]																															
2018	20(66.7%)	14{3}[3]	6/8{2/2}[4/7]																															
2019	25(83.3%)	15{4}[4]	10{6/10}[4/10]																															
2020	30(100.0%)	17{5}[4]	13{8/12}[5/15]																															
2021	33(110.0%)	18{5}[5]	15{9/15}[6/18]																															
2022	35(116.7%)	18{5}[5]	17{9/15}[6/18]																															

[地域と連携し、学生を巻き込む教育研究活動]

◆これまで実施できていなかった地域と連携した教育研究活動だが、昨年度から波佐見町、佐世保市(QSPを介して)と再開した。今年度も既に多くの企画が立ち上がり、徐々に実施しつつある。それも学生を巻き込む企画なので、本コースの知名度アップとイメージの改善、さらには学生の満足度アップが期待できる。これによって、勉学意欲喪失への対策や学生募集、さらには就職意識の醸成にもつながり、地域への就職も増えるものとする。以下に、現時点での予定企画(一部実施済み)をリストアップする。

- ① NiAS版ビジネスプランコンテスト
- ② 小学校教員へのプログラミング教育支援
- ③ 小中学生向けものづくり体験教室
- ④ 長崎市北部商工会との連携事業
- ⑤ N4サミット(in 波佐見)
- ⑥ 長崎明誠高校での生徒への指導協力
- ⑦ 西陵高校での生徒への指導協力
- ⑧ 浜屋百貨店との連携(NiAS浜屋大学の設立)
- ⑨ JTBとの連携
- ⑩ 戸石とらふぐ産地協議会との連携
- ⑪ ペンギン水族館活性化
- ⑫ 雲仙市地域活性化
- ⑬ 長崎における海事観光への提案
- ⑭ 大村市・大村湾岸活性化
- ⑮ 諫早市まち・ひと・しごと創成総合戦略への協力
- ⑯ 留学生増に向けた海外の日本語教育事情収集の体制づくり
- ⑰ NiAS版奨学ローンの商品開発

左欄のリスト①～⑯のうち、すでに実施したものも含めて、今後の取組を以下に示す。

- ① については、7/20(土)に既に実施した。そこで高評価を受けた3件は長崎県のビジネスプランコンテスト(9/23)へ参加する。
- ② については、既に日見小学校の担当教員と教材開発をしており、7/25と8/21には日見小学校内での研修において協力する。また、9/14にはQSPの公開講演会において、この活動の途中報告と、来年度に向けた活動予定を紹介する。
- ③ については、昨年度引き続き実施する。今回は、低学年向けにビジュアルプログラミング体験を用意し、日見小学校の教員にも協力してもらう予定である。
- ④ については、申請していた中小企業庁補助金(今後5年間継続)が7/25に満額・無修正で承認され採択(本コースへの依頼分は344万円)された。夏休み中にも本格的な活動を始める。
- ⑤ については、昨年度から活動している波佐見町において、波佐見高校も加えたN4サミット(11,12月予定)を計画している。
- ⑥,⑦については、入試課の石見先生から情報提供を受けて、両校での生徒へのプレゼンなどの指導に協力する。明誠高校において、来年度に向けてはネタ作りの段階から協力する。また、西陵高校においては、9/13に実施予定。なお、西陵高校での活動は国と県が進める「ふるさとのみらいを担う高校生の育成事業」の一環であり、今後も広がりが期待でき、本学および本コースの知名度と魅力のアップを図る。
- ⑧では、浜屋百貨店より依頼(担当者は、本学卒業生)を受けて、問題解決や人財教育へ協力する。その現場として、NiAS浜屋大学(仮称)を設ける。8月上旬にも浜屋百貨店と詳細を詰める。
- ⑨においては、単独の事業での連携ではなく、本コースが関わる多くの活動を通しての連携である。これらの連携だけでなく、学生の就職先としても視野に入れている。まず手始めに、2名のインターンシップ受入が決まり、9月上旬に実施される。
- ⑩,⑪,⑫,⑬については、具体的な提案の調整中。いずれの初回会合においても、本学本コースのイメージが変わったとの意見をもらった。
- ⑭については、既にベトナムの高校・大学で日本語教育を実施している学校をFFGに調査してもらい、国際班に提供済み。
- ⑰については、法律面、税務面の問題をクリアし、行政および金融機関との調整中。

・ビジネスプランコンテストは好評。

・ペンギン水族館や浜屋百貨店内にサテライトキャンパスを置けないか。成功体験を重ね一つずつ進んでいく。

・ペンギン水族館→修学旅行などの県外からの高校生も多く、PR効果見込めるのでは。ペンギン水族館も入館者10万減で悩んでいて、経営分析も出来ていない状態で経営管理が出来る人がいない。経費がかかっても十分に回収出来る仕組み作り。お互いにメリットのある、果実を得られる取り組みを浜屋も含め実施し、本学のリソースを全て出していく。本学の発信拠点に。保護者の本学のイメージ変化につなげる。

<生命>

(1) 入学者の状況から

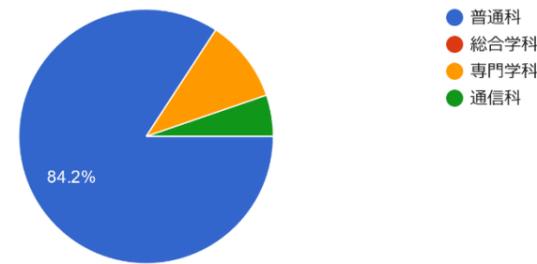
本コースへの入学状況は次のとおりである。

一般入試による普通高校からの入学者がほとんどで、AO 特待によって専門高校からの入学者が数名である。2019 年度入学生  
の所属学科の分布は下図のとおりである。  
農業高校（栽培、生命）や工業高校（化学、エネルギー）からの  
入学者を増やしていかなければならない。

	入学者数
2014	12
2015	22
2016	23
2017	18
2018	16
2019	20

あなたが高校時代に所属した学科の種別はどれですか。

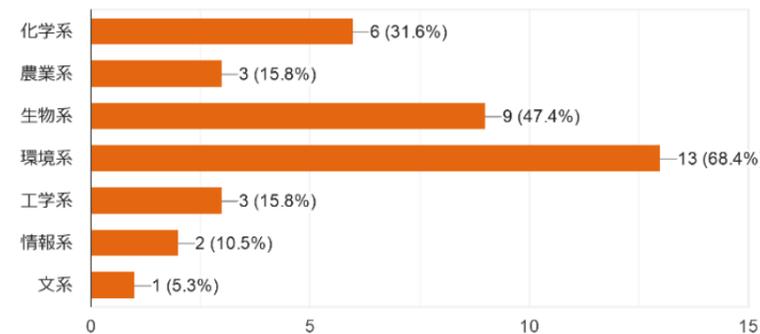
19 件の回答



また、今年度入学生の進学希望分野は次の図のとおりで、環境系が最も多く、生物系、  
化学系と続いた。環境が扱う分野は幅広いため、もう少し細分化した領域について  
調査が必要である。（できれば、第一希望の進学先を知りたかった。）

高校時代にどのような分野の学科へ進...ようと考えていたか教えてください。

19 件の回答



生物系や化学系への興味がある学生を受け入れるためには、実験室や設備の維持・管理  
（できれば拡充）が避けられない。計画的メンテナンスや必要な外部資金の獲得も検討  
したい。

<生命>

◆学生の学習満足度を高めるためには実験設備の維持・拡充が必要である。  
今年度は一部の設備のメンテナンスを実施する。

◆8号館2階に共通の実験室を整備する。（今年度中）

◆実験水槽横の荒廃したテニスコートに圃場を整備する。（今年度中）

◆工業高校、農業高校へのアプローチを行うが、AO 利用が中心になると考えられる  
ので、高大連携の取り組みを入学につなげられるようにしていきたい。（今年度  
は高大連携の事例づくりとして、長崎県高校生・大学生環境会議を利用する。）

◆所属する女子学生は分析や生命系分野の希望が多い。今後増やせる可能性がある  
ため、食品衛生などと絡めて募集活動を行う。

◆理科の教員免許取得のメリットをアピールしていきたい。

<生命>

•生命環境工学コースの内容？→環境という言葉が幅が広い。  
本学の環境→「生態」、「水など生活環境の分析」「人間の生物科学」、「エネルギー」。理科の4  
つの分野を使った持続可能な社会づくり。  
農業系→畑の整備。高校時代に生物や化学専攻が多く、入学した学生は環境分析、生物科学に興味  
が高い。物理専攻が少ないので、エネルギー関連などへの幅が広がらない。総合情報の中に隠れて  
いる。データを扱うので、環境的アプローチを情報を使い考える。

•高校生にとって、資格が取得できるのは良い。資格取得後の就職分野・就職先も重要。

•理科の免許の効果は明確。毎年数名いる。

•現4年生全員と2年次に面談→入学時の志望理由のキーワード「自然、環境、生物」が「好き、  
関心、興味」がほとんどで、前向き。「理科の教員免許」も多い。現状も「興味があることを学べる  
から楽しい」との発言が多かった。他コースとも比べ、在学後も現状肯定が多い。「理科の教員免  
許」は特に進学校にアピール必要。

(2) 長崎大学環境科学部の状況から

長崎大学の環境科学部を不合格となり本コースへ入学する普通科卒の学生は毎年一定数存在する。環境科学部の入試状況は次のとおりである。

	倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
2016	2.5	122	492	386	154
2017	1.6		327	241	149
2018	2.3		500	329	142

これらの学生は学力も高いため、第2希望として選択してもらえるようなアピールが必要であるが、そのためには教育内容の充実だけでなく環境の整備が欠かせない。(学生間の交流があるため比較されてしまう。)

(3) ある程度文系的志向の学生確保(女子学生含む)

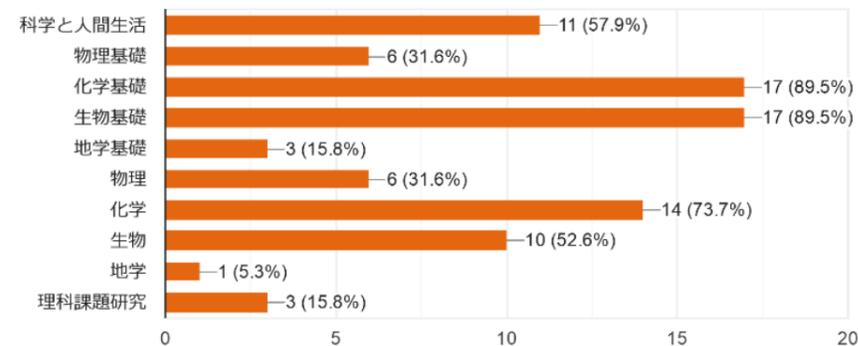
持続可能な社会づくり(SDGs)の修学分野を検討する。環境省が示す地域環境共生圏(ICTが含まれる)の取り入れ。

【生物を専攻する高校生の受け皿とアピール】

2019年度入学生の理科の履修科目を見ると、化学と生物をほとんどの学生が履修している。現状において生物を履修する高校生の受け皿となっていると考えられる。

あなたが高校時代に履修した理科の科目を教えてください。

19件の回答



ただし、理科の履修科目の選択は本人の選択だけでなく、高校側での選択だったりするので、もう少し調査が必要である。

エネルギー関連も扱っているため、むしろ物理を履修した高校生の獲得ができるようアピールした方がいいのではないかと考えられる。(次の記述のコース改革にも関連)

• 長大環境を落ちて入学する学生も多い。普通科系高校からの受験者は多いが、国立大学合格等で、手続き率が低い。受験者数を増やすか、育成して卒業後遜色なくできるように付加価値をつけてやるかのどちらか。就職モデルと資格との関連性(食品、エネルギー)。

◆ ホームページに高校時代の理科の履修科目とコースの修学内容との関連性を示す情報を追加する。

◆ 理科の履修状況のさらなる調査を進める。

<p><b>【コース改革】</b>  ◆コース内にプログラム制を置くこととなったが、本コースとしてもコース連携によるプログラムを検討する。現在でもコース内の履修モデルとして、機械・電気・建築と連携した「省エネルギー工学モデル（エネルギー管理士免許）」、医療と連携した「食品衛生モデル（食品衛生管理者・監視員資格）」を運用している。</p> <p><b>【高大連携の推進】</b>  (1) 附属高校生へのアピール  本学附属高校からの本コース在学学生は、現在3年生に1名のみである。学生活動グループと高校生との関係づくりや活動を立ち上げていく。また、地域の小中学生へのアプローチを大学生と高校生が協働で実施し、附属校および大学への関心を高めていく。</p> <p>(2) 高校とのつながりづくり  長崎県高校生・大学生環境会議への積極的関わりを作っていく。これまで、実施主体としての関わりだったが、高校生時代（島原高校）に参加していた生徒を2019年度にAO特待生として獲得できた。この学生を中心に関わりを強化し、環境に興味をもつ高校生との接点を増やしている。</p> <p><b>【学生とのつながり 社会とのつながり（人と人とのつながり）】</b>  ◆フィールドワーク、NiASプロジェクト、社会活動（ボランティア）によって、教員と学生、学生同士（学年内、学年間）、学生と地域社会とのつながり（関係性）を作り出せる環境の維持と発展を進める。</p>	<p>◆学内におけるコース改革と協調し、プログラム化の整備を行う。</p> <p>(1) 附属高校生へのアピール  シーサイドキャンパスの元水田を畑へ変えていく。この活動に高校のグループも関わってもらえるよう関係づくりと整備を進めていく。</p> <p>(2) 高校とのつながりづくり  8月に実施される環境会議への学生グループが参加する。大学生代表として、1年生の杉永君に頑張ってもらえる。</p> <p>◆学生間をつながり  NiASプロジェクトによる女子学生の活躍・アピール  環境活動の実施</p> <p>◆地域社会をつながり  大中尾棚田オーナー制度への参加（5月、7月、10月）  茂木南部地区でのびわ産地の活力づくりへの参加（通年）  竹林整備と竹灯籠イベントへの参加（日見地区の多くの関係者との協働）（7月、8月）  日見川の清掃活動</p> <p>◆行政・事業者をつながり  廃棄物の展開調査（業務委託予定）</p>	<p>・他県へのアピール方法→フィールドワーク・社会とのつながり。</p>
--	---	---------------------------------------

<p>&lt;別科&gt;</p> <p><b>【募集活動の充実】</b> (定員 30名の確保)</p> <p>①中国、韓国、インド、ベトナム、ミャンマーなどからの志願者確保および留学生の国籍の多様化を更に図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IHパートナーズとの2020年度以降の募集業務の提携</li> <li>・Sliver Peak 社団法人と2020年度以降の募集業務の提携</li> <li>・ネットによる発信力の強化</li> <li>・国内外での募集活動、他部署との連携</li> </ul> <p>②募集活動の体制作り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国際班」および「入試課」などの関係組織と協働する体制を整備する。</li> </ul> <p>③本学の更なる国際化を図る為にも諸外国の大学との協定締結に向けて他部署と協力する。</p>	<p>&lt;別科&gt;</p> <p>①2020年度用別科パンフレット・ホームページ作成(7-8月)</p> <p>②別科入試の実施(9-2月)</p> <table border="0"> <tr> <td>一次募集(募集期間:8/19-9/13)</td> <td rowspan="3">}</td> <td rowspan="3">実施</td> </tr> <tr> <td>二次募集(募集期間:9/24-11/1)</td> </tr> <tr> <td>三次募集(募集期間:1/14-2/28)</td> </tr> </table> <p>③合格者への連絡と入学手続き(2-3月)</p> <p>④留学説明会・進学説明会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナム ダナンでの留学説明会(長崎県国際課主催)に参加(7月)</li> <li>・香港での留学説明会(JASSO主催)に参加(8月)</li> <li>・中国での留学説明会(長崎県国際課主催)に参加(10月)</li> </ul> <p>⑤2020年別科秋入学について、体制を整えるようにする</p>	一次募集(募集期間:8/19-9/13)	}	実施	二次募集(募集期間:9/24-11/1)	三次募集(募集期間:1/14-2/28)	<p>&lt;別科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別科秋入学の実施→要請は強い。1年半のコースになり得る(大学院生のみなら1年で可)。企画案は作成済・議論した。今年度は時期尚早なので来年度からの実施に向けて、規程から整備する。別科委員会等で検討。教員数の問題などあり。やるという前提で現実的な擦り合わせを。</li> <li>・国内の日本語学校6校(関東地区)訪問予定。関東地区の日本語学校から学部・別科への入学者取り込み。主に学部・大学院入学者がターゲット。福井工大→留学生の受験者数40名超え。本学→留学生の外部からの受験者数(今年1名、昨年1名)、広報不足。別科入学者のみを増やそうとすれば、質の問題。海外選者はこちらでコントロール出来ず、リスク高い。国内の信頼のおける日本語教育機関からの推薦などでの受験者を増やす。</li> <li>・今回訪問予定の6校→定評があり、書類選考も実施していて、ピザ目的や学力の低い学生はすでにふるいにかけられている外部の留学生。今後数年間の経営改善の面でも、日本語学校からの直接受験者の開拓も必要。</li> <li>・日本語学校も本学の指定校制度の導入が出来ないか。</li> <li>・今年度、マネジメント工学に別科から5名(全体で13名)入学。別科への投資・宣伝必要。</li> <li>・来年度別科入学者見込みは未定→インドは10名程度、IHパートナーズからは、ベトナム×、モンゴル、ネパールからは紹介可。</li> <li>・今回訪問のベトナムからの入学は来年秋?協定締結必要。→秋入学の受け入れのシステムの整備が最優先。経費→補正予算。長崎県内の非常勤の先生、数が限られているので、確保が課題。現在6名の非常勤(他大学も掛け持ち)。</li> <li>・昨年、日本語教育機関として京都福祉大学の問題。文科省→日本語教育の質の担保。日本語能力試験合格者数、留学者数の公表。チェック厳格化。今後、数を入れるだけではなく、質の担保が求められる。選考方法の見直しや合否判定もシビアに考える必要。業者はあくまで紹介まで。選考は本学の基準でしっかり行う。</li> <li>・来年秋の入学の受け入れシステムを実現するために、今年度中に準備項目、経費のリストアップ。規程の改訂や予算要求など。</li> </ul>
一次募集(募集期間:8/19-9/13)	}	実施					
二次募集(募集期間:9/24-11/1)							
三次募集(募集期間:1/14-2/28)							

<p>&lt;附属高校&gt;</p> <p>◆定員120名を確保</p> <p>令和2年度からの入学者数は、定員の120名を確保できるよう、具体的な目標を掲げて募集活動を推進する。</p> <p>1 中学校教員へのアピール強化 スポーツだけではなく学習面にも力を入れていることをアピールするため、国公立、有名私立大学進学実績の紹介及び、入試説明会等の折、中学校教員に対する授業見学の機会を設定する。</p> <p>2 強化指定クラブでの生徒数確保</p> <p>① サッカー部 40名～45名 (創新寮の収容能力に配慮)</p> <p>② 野球部 20名～25名 (今年度より5名以上の増を目指す)</p> <p>③ バレーボール部 15名 (今年度より10名程度の増)</p> <p>3 強化指定クラブ以外の部活動での生徒数確保</p> <p>① NiAScience部 3名～5名 (全国大会での優勝等アピール)</p> <p>② 柔道部 2名～3名 (専門の指導者を活用)</p> <p>③ バスケットボール部 3名～5名 (専門の指導者を活用)</p> <p>④ ソフトテニス部 2名～5名 (令和2年度より、現在の硬式テニス部をソフトテニス部に代え、入部希望者を募る)</p> <p>4 近隣の日見中、東長崎中、橘中からの入学者増(5名程度) 今年度の入学者は、日見中、東長崎中、橘中いずれも5名ずつの15名であった。次年度は20名を確保したい。 近隣中学校とは、入学式、卒業式、体育祭などを通じて関係はできており、更に今年度は合同ボランティア清掃を実施し、更なる交流を図っている。</p> <p>5 長崎総合科学大学の附属高校としての特色を活かした入学者増 県内唯一の理工系大学の附属高校として、大学との連携を深め、オープンスクール等での長総大の説明、ロボットやドローン実演、各種ロボット大会での優勝アピール等、機会あるごとに中学生への長総大の魅力を発信することで、附属高校への入学者増を図る。</p>	<p>&lt;附属高校&gt;</p> <p>◆平成31年度の入学者は106名にとどまり、定員の120名に届かなかった。したがって、定員の120名の確保を最大の目標として、募集活動を推進する。</p> <p>1 中学校教員へのアピールを強化する。 10月の中学校教員対象の入試説明会の際、本校の公開授業を実施し、授業の実態、教育内容を知ってもらう。 また、中学校訪問の際、近年の国公立、有名私立大学進学実績を紹介し、学力向上への取り組みの成果を理解してもらう。</p> <p>2 強化指定クラブで生徒数を確保する。</p> <p>3 強化指定クラブ以外の部活動でも生徒数を確保する。 近年、特別入試(推薦・専願)での入学手続き者がほとんどである。したがって、特別入試の強化指定クラブを主に、有望選手を特待生として積極的に勧誘し、目標達成を目指す。 また、中学生が興味を持ちそうなクラブを設置、活性化させ入学者増を図る。</p> <p>4 近隣の日見中、東長崎中、橘中からの入学者増を図る。 8月の第2回オープンスクール及び、10月の第3回オープンスクールの開催に合わせ、近隣3中学校に積極的な案内を行い、参加者増を図る。 9月の体育祭、文化祭の案内を行い、本校への来校機会を設ける。 7月に、日見中学校3年生と合同の地域清掃を実施し交流を深めた。 今後は東長崎中、橘中とも実施を計画する。</p> <p>5 長崎総合科学大学の附属高校としての特色を活かして入学者増を図る 6月のオープンスクールで、初めて長総大のブースを設け、中学生及びその保護者に長総大の紹介を行った。また同時にロボット体験、ドローン実演コーナーを設け好評であった。 10月のオープンスクールでも実施予定 9月の総附高文化祭や11月の造大際での催しもの等交流を深め、中学生やその保護者、地域住民に長総大と附属高校の連携活動を発信し理解を深めたい。</p>	<p>&lt;附属高校&gt;</p> <p>・大学との連携→まだ、足りない。大学まで効果が波及するような取り組み。ドローンや吹奏楽など大学と高校が連携したサークル活動。高大連携体制の強化。ロボット部のように、ドローンも。→大学の教員をさらに活用。アイデアを高校からも学長に。</p> <p>・これまでも、努力の積み重ねがあったが、特に4月以降のわずか数か月間で、重点を置き、1つの方向性を持って、大きなことをやっているのが、肌で感じられる。</p> <p>・学習面でのアピール→特進クラス設置。正門入口にも貼り出し。文武両道でさらにやってもらいたい。</p> <p>・特進クラス→模試やセンター試験など、全員受験の方向か?→サッカー部が多く、遠征等で受けられない。進研模試等中心だが20数名中、受験は実質5・6名程度。</p> <p>・硬式テニス→ソフトテニスへ移行。東長崎はソフトテニスが盛ん。少しテニスコートの整備が必要。柔道は1学年2名を目指す。</p> <p>・附属高校→印象が良い。地域の評価→高い。規律の正しさや挨拶。スポーツ優先と女子が少ないイメージ。女子の増加が課題。例えば医療工学コース入学や将来の職業につながるような施策が必要。学習面での系列やクラブ活動の設置など。普通科の改編に伴い、4つの分類のうち2つに絞るとか、理工系、医薬系など、分野を絞る方向性もあり。女子生徒の就職までの一連の流れを明確にする。</p> <p>・生徒数確保目標の県外からの見込みは?→サッカー部=県外は40～45名。野球は5・6名。バレーはほとんど県内だが遠方(離島など)。</p>
--	---	---

		<ul style="list-style-type: none"> <li>•部活で頑張っている生徒の学校生活での活躍は？ →生徒会が変わった。役員もサッカー部やバドミントン部等が中心で、立案・企画・進行等の面で積極的に活動し、他の生徒にも波及効果。</li> <li>•野球部→長崎国際大の事例。硬式野球部設立・強化で、野球部だけで1学年100名以上入学者を確保。志願者は200名規模。県外からも入学している。</li> <li>•専門学校進学者は年々減少。20人程度。少ない年は9名。</li> <li>•四大・短大希望が多い→今年度120名のうち、就職希望は20名。100名は進学希望で、うち約20名が専門学校なので70~80名が大学進学希望。</li> <li>•サッカー部が今年、実績が厳しく、大学進学の推薦で苦戦が予想されるので、本学へ。コースのミスマッチがないようにアドバイス要。本学の場合は、教員になって指導者の道もある。</li> </ul>
<p>&lt;新技術創成研究所&gt;</p> <p>社会人修士課程・博士課程</p> <p>[電気電子情報部門]</p> <p>◆共同研究を通して、社会人の修士課程や博士課程への入学を推していく。</p> <p>[海洋・複合新技術部門]</p> <p>◆共同研究、リカレント教育を通して、社会人の修士課程や博士課程への入学を進めていく。</p>	<p>&lt;新技術創成研究所&gt;</p> <p>[電気電子情報部門]</p> <p>◆2019 年度4 月入学 博士課程：1名</p> <p>1◆2019 年度10 月入学予定 博士課程：4名（内、共同研究から2名）</p> <p>[海洋・複合新技術部門]</p> <p>◆2019/10 応募：博士課程×2</p>	<p>&lt;新技術創成研究所&gt;</p> <p>[電気電子情報部門]</p> <p>[海洋・複合新技術部門]</p>